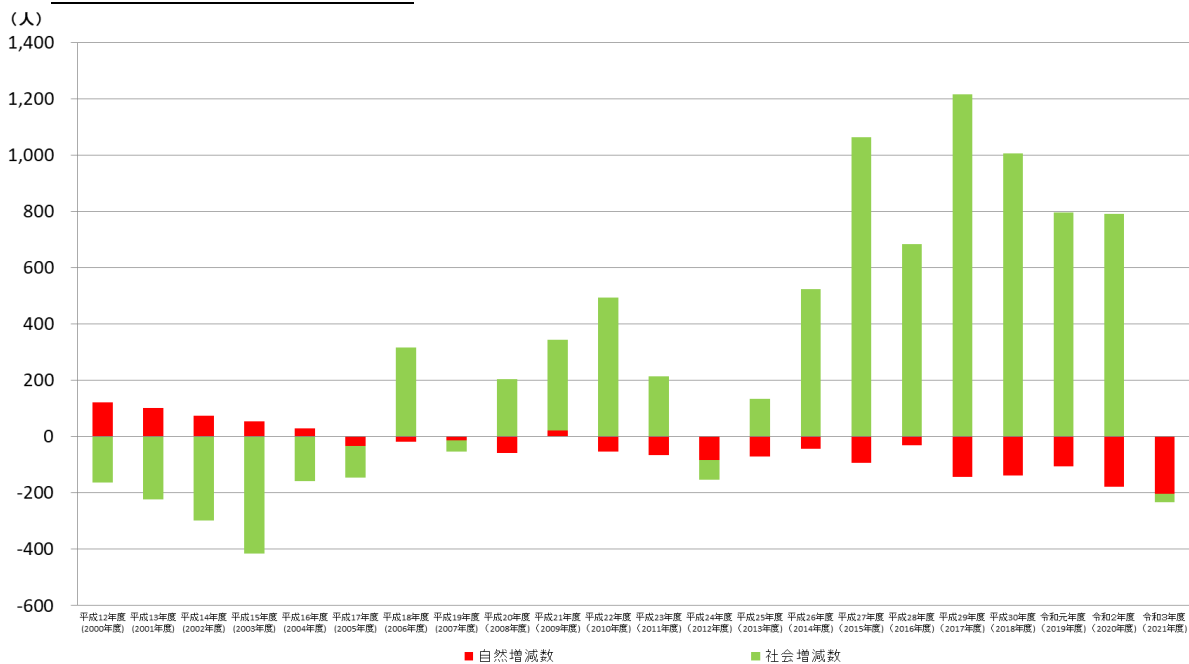


## 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状

### ①自然動態・社会動態(令和3年度)

- 出生数は昨年度より 59 人減少して 508 人となり、死亡数も昨年度より 34 人減少し 712 人となりました。自然増減数は 204 人減（昨年度は 179 人減）となりました。
- 転入数は 5,706 人で、昨年度より 883 人減少しました。転出数は 62 人減少して 5,736 人となったため、社会増減数は 30 人減（昨年度は 791 人増）となりました。
- 全体としてはしばらく続いていた「自然減・社会増」から、令和3年度については「自然減・社会減」となりました。

図表 1 自然動態・社会動態



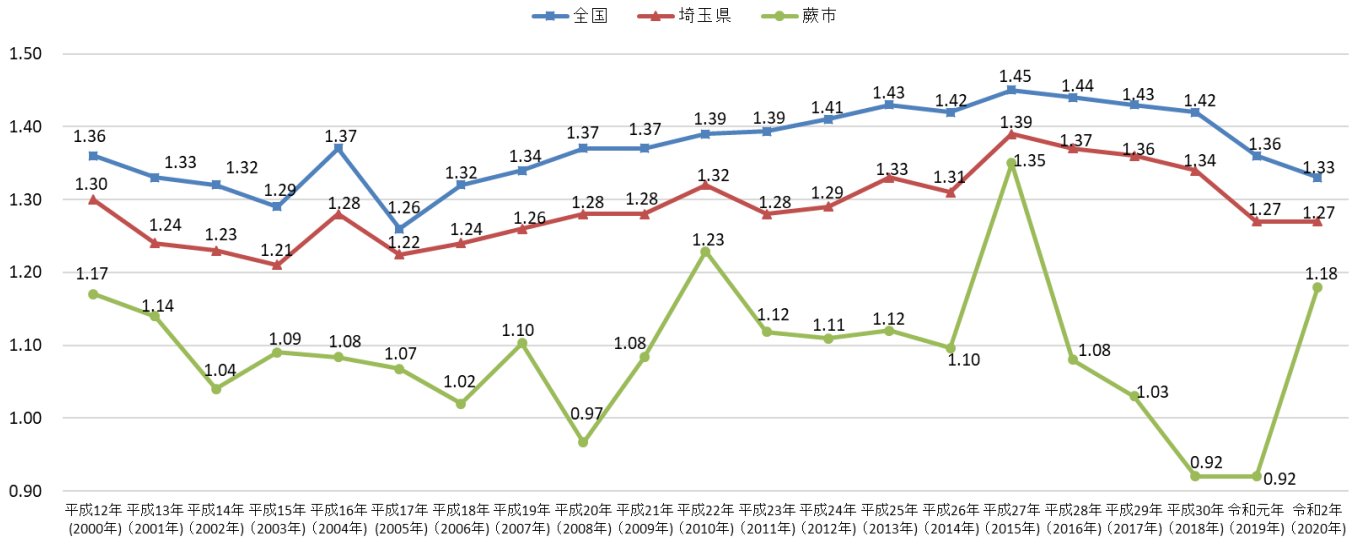
	自然動態			社会動態		
	出生数	死亡数	自然増減数	転入者数	転出者数	社会増減数
平成12年度(2000年度)	648	527	121	5,455	5,617	▲162
平成13年度(2001年度)	620	519	101	4,880	5,103	▲223
平成14年度(2002年度)	602	528	74	4,780	5,079	▲299
平成15年度(2003年度)	602	548	54	4,536	4,951	▲415
平成16年度(2004年度)	561	531	30	4,548	4,705	▲157
平成17年度(2005年度)	543	577	▲34	4,537	4,649	▲112
平成18年度(2006年度)	530	549	▲19	4,830	4,514	316
平成19年度(2007年度)	578	592	▲14	4,482	4,521	▲39
平成20年度(2008年度)	513	572	▲59	4,502	4,298	204
平成21年度(2009年度)	584	562	22	4,443	4,122	321
平成22年度(2010年度)	548	601	▲53	4,715	4,222	493
平成23年度(2011年度)	574	639	▲65	4,522	4,307	215
平成24年度(2012年度)	587	669	▲82	4,929	5,000	▲71
平成25年度(2013年度)	598	669	▲71	5,789	5,655	134
平成26年度(2014年度)	597	641	▲44	5,780	5,256	524
平成27年度(2015年度)	634	726	▲92	6,609	5,545	1064
平成28年度(2016年度)	632	662	▲30	6,308	5,625	683
平成29年度(2017年度)	569	712	▲143	6,899	5,684	1215
平成30年度(2018年度)	529	667	▲138	7,056	6,051	1005
令和元年度(2019年度)	584	690	▲106	6,761	5,965	796
令和2年度(2020年度)	567	746	▲179	6,589	5,798	791
令和3年度(2021年度)	508	712	▲204	5,706	5,736	▲30

資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」（総務省、平成12年～24年度）、及び、「住民基本台帳」（蕨市、平成25年～令和3年度）

## ②合計特殊出生率

○埼玉県「合計特殊出生率の年次推移」によると蕨市の合計特殊出生率は、令和2年（2020年）で約1.18となっています。県内自治体（40市）の中では34位に位置しています。

図表2 合計特殊出生率の推移



図表3 県内自治体（市のみ）の合計特殊出生率

平成29年(2017年)					令和2年(2020年)						
順位	市名	合計特殊出生率	順位	市名	合計特殊出生率	順位	市名	合計特殊出生率	順位	市名	合計特殊出生率
1	吉川市	1.46	21	鴻巣市	1.25	1	川越市	1.55	21	富士見市	1.26
2	八潮市	1.45	22	所沢市	1.25	2	吉川市	1.52	22	北本市	1.26
3	朝霞市	1.43	23	草加市	1.23	3	白岡市	1.52	23	新座市	1.25
4	志木市	1.41	24	鶴ヶ島市	1.23	4	八潮市	1.48	24	久喜市	1.24
5	三郷市	1.37	25	熊谷市	1.22	5	所沢市	1.48	25	狭山市	1.24
6	白岡市	1.34	26	上尾市	1.21	6	朝霞市	1.43	26	坂戸市	1.24
7	深谷市	1.34	27	本庄市	1.20	7	三郷市	1.42	27	飯能市	1.23
8	越谷市	1.34	28	入間市	1.20	8	秩父市	1.40	28	蓮田市	1.23
9	蓮田市	1.34	29	川口市	1.20	9	春日部市	1.39	29	日高市	1.21
10	さいたま市	1.33	30	狭山市	1.20	10	戸田市	1.39	30	鴻巣市	1.20
11	和光市	1.32	31	久喜市	1.17	11	上尾市	1.38	31	鶴ヶ島市	1.20
12	戸田市	1.32	32	春日部市	1.16	12	志木市	1.37	32	本庄市	1.20
13	桶川市	1.31	33	飯能市	1.15	13	深谷市	1.36	33	桶川市	1.19
14	ふじみ野市	1.31	34	坂戸市	1.13	14	ふじみ野市	1.34	34	蕨市	1.18
15	川越市	1.31	35	北本市	1.10	15	和光市	1.30	35	草加市	1.16
16	東松山市	1.30	36	加須市	1.09	16	さいたま市	1.30	36	羽生市	1.15
17	羽生市	1.30	37	日高市	1.09	17	川口市	1.29	37	入間市	1.11
18	秩父市	1.30	38	行田市	1.09	18	越谷市	1.29	38	行田市	1.11
19	富士見市	1.30	39	蕨市	1.03	19	東松山市	1.29	39	加須市	1.09
20	新座市	1.26	40	幸手市	0.98	20	熊谷市	1.27	40	幸手市	1.08

資料：「合計特殊出生率の年次推移（保健所・市区町村別）」（埼玉県）

### ③年齢階級別移動数

○令和3年においても、近年の蕨市の特徴である「15歳～29歳」における『転入超過』、及び、「30歳～39歳」の『転出超過』が見られます。昨年との比較では、「15歳～29歳」の転入超過数が200人以上減少し、「30歳～39歳」の転出超過数が40人以上増加しました。

図表4 令和3年における年齢階級別移動数

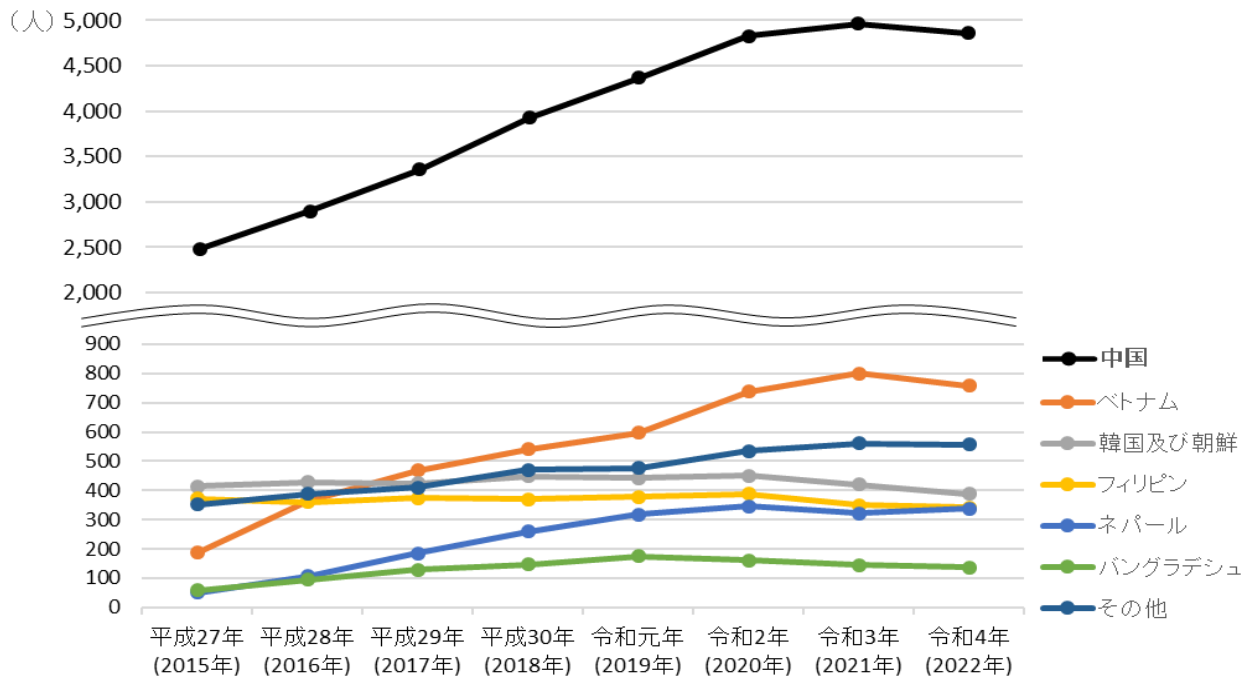
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
転入	187	87	47	153	1,444	1,520	819	444	266	202	155	102	70	41	40	33	29	21	14
転出	255	83	37	130	1,102	1,390	859	486	270	210	206	113	97	73	84	48	44	31	18
転出入	-68	4	10	23	342	130	-40	-42	-4	-8	-51	-11	-27	-32	-44	-15	-15	-10	-4

資料：「住民基本台帳人口移動報告」（総務省）

### ④外国人人口

○国籍別の動向を見ると、近年は、中国が他と比較して多く、全体の6割以上を占めています。また、中国とベトナムが特に増加傾向にありましたが、令和4年はともに減少し、外国人人口全体でも減少しています。

図表5 外国人人口の動向（各年4月1日）



	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)
中国	2,483	2,895	3,360	3,925	4,369	4,831	4,963	4,861
ベトナム	188	363	469	541	597	737	801	757
韓国及び朝鮮	414	428	424	449	443	451	421	389
フィリピン	373	359	374	370	378	389	350	341
ネパール	51	106	185	259	318	345	321	337
バングラデシュ	58	94	128	146	176	161	145	137
その他	352	388	411	471	477	534	560	556
合計	3,919	4,633	5,351	6,161	6,758	7,448	7,561	7,378

資料：「国籍別人口」（蕨市）

### ⑤人口の推移と年齢構成

○令和4年においては、前年と比べ、年少人口・生産年齢人口・老年人口のいずれも減少となりました。  
構成比では、年少人口の割合が僅かに減少傾向であり、75歳以上の割合では増加傾向がみられます。

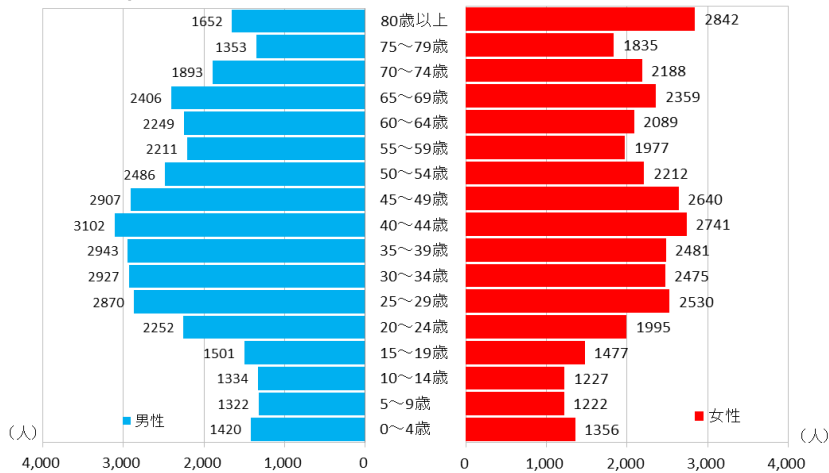
図表6 総人口及び年齢4区分別人口の推移（住民基本台帳人口 各年4月1日）

		平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)
年少人口 (0～14歳)	実数(人)	8,152	8,101	8,120	8,059	7,941
	構成比(%)	10.9%	10.8%	10.7%	10.6%	10.5%
生産年齢人口 (15～64歳)	実数(人)	49,273	49,763	50,060	50,288	49,918
	構成比(%)	66.0%	66.1%	66.2%	66.3%	66.3%
老年人口 (65歳以上)	実数(人)	17,268	17,390	17,474	17,494	17,454
	構成比(%)	23.1%	23.1%	23.1%	23.1%	23.2%
75歳以上	実数(人)	8,544	8,903	9,084	9,023	9,245
	構成比(%)	11.4%	11.8%	12.0%	11.9%	12.3%
総人口	実数(人)	74,693	75,254	75,654	75,841	75,313

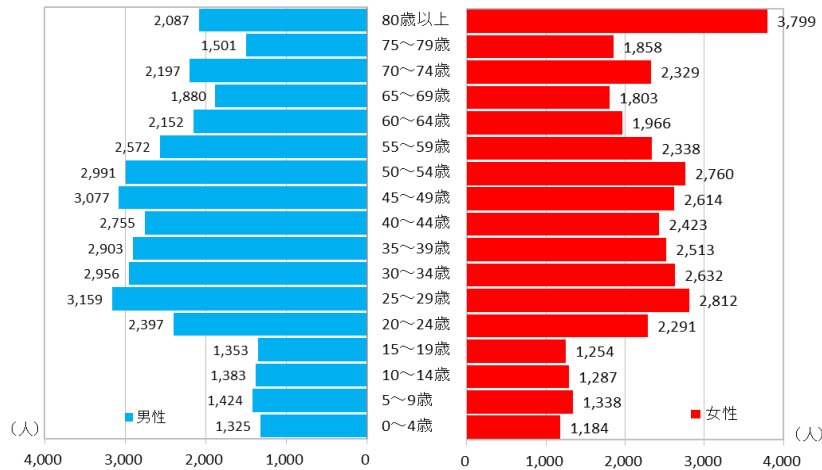
資料：「年齢別人口統計」（蕨市）

図表7 男女別年齢5歳階級別人口の推移（人口ピラミッド）

平成27年（2015年）



令和4年（2022年）



資料：「年齢別人口統計」（蕨市）

## ⑥転入・転出状況

○転入元の上位は川口市・戸田市ですが、転入超過数で見ると東京都区部が上位を占めています。近年の傾向として、東京都区部からの人口流入が続いています。

**図表8 令和3年における蕨市への転入状況**

転入数				転入超過数		
順位	対象自治体	実数	構成比	順位	対象自治体	実数
1	埼玉県川口市	949人	16.7%	1	東京都北区	138人
2	埼玉県戸田市	389人	6.9%	2	東京都豊島区	62人
3	東京都北区	274人	4.8%	3	東京都板橋区	46人
4	埼玉県さいたま市南区	185人	3.3%	4	東京都荒川区	41人
5	東京都板橋区	159人	2.8%	5	東京都中野区	38人
6	東京都豊島区	132人	2.3%	6	東京都新宿区	33人
7	東京都足立区	90人	1.6%	7	東京都杉並区	25人
8	東京都練馬区	85人	1.5%	7	新潟県新潟市	25人
8	東京都荒川区	84人	1.5%	9	埼玉県朝霞市	24人
8	東京都新宿区	83人	1.5%	10	宮城県仙台市青葉区	22人

資料：「住民基本台帳人口移動報告」（総務省）

○転出先の上位は川口市・戸田市・さいたま市南区といった埼玉県内近隣自治体ですが、転出超過数で見ても、県内近隣自治体への人口流出が特徴となっていることがわかります。

**図表9 令和3年における蕨市からの転出状況**

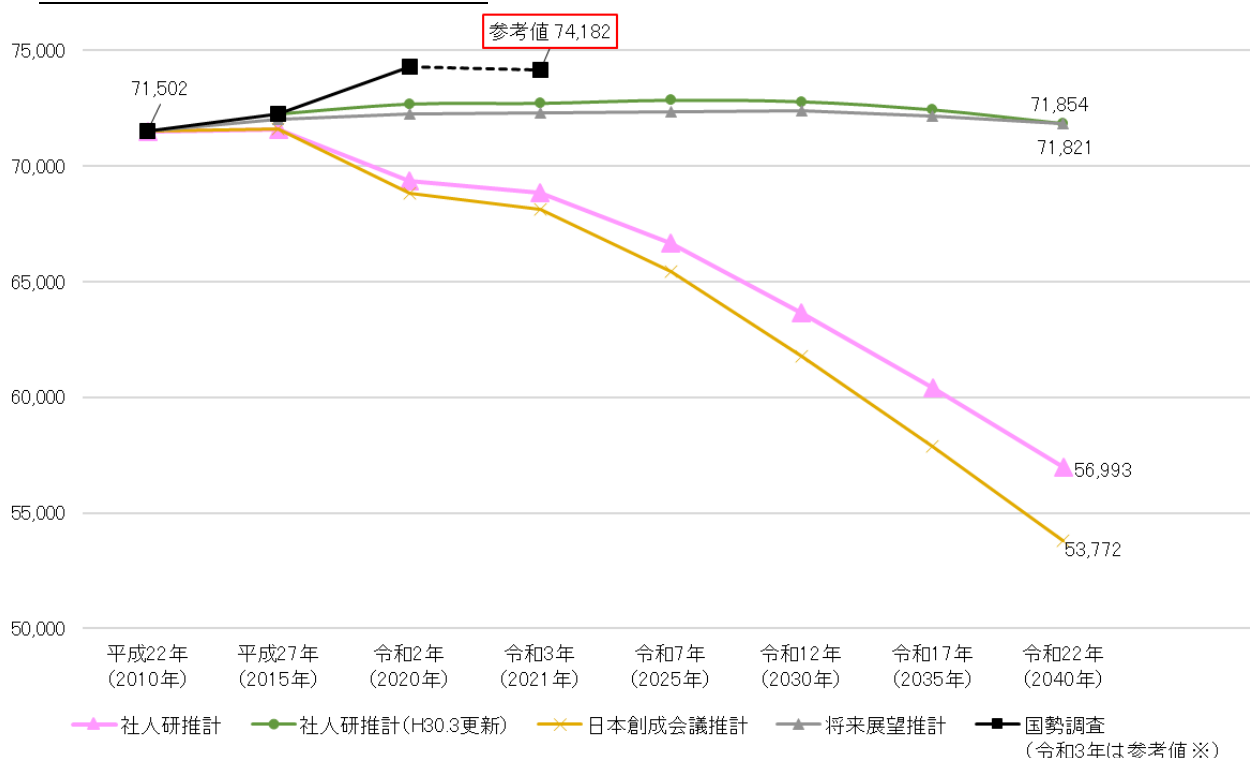
転出数				転出超過数		
順位	対象自治体	実数	構成比	順位	対象自治体	実数
1	埼玉県川口市	1107人	20.0%	1	埼玉県川口市	158人
2	埼玉県戸田市	381人	6.9%	2	埼玉県さいたま市浦和区	83人
3	埼玉県さいたま市南区	243人	4.4%	3	埼玉県さいたま市南区	58人
4	東京都北区	136人	2.5%	4	埼玉県さいたま市緑区	54人
5	埼玉県さいたま市浦和区	114人	2.1%	5	埼玉県上尾市	37人
6	東京都板橋区	113人	2.0%	6	埼玉県越谷市	33人
7	東京都足立区	93人	1.7%	7	埼玉県さいたま市見沼区	29人
8	埼玉県さいたま市緑区	87人	1.6%	8	埼玉県さいたま市北区	27人
8	埼玉県越谷市	77人	1.4%	9	栃木県小山市	25人
10	埼玉県上尾市	74人	1.3%	10	埼玉県さいたま市桜区	24人

資料：「住民基本台帳人口移動報告」（総務省）

## ⑦人口の将来展望の現状

- 令和2年（2020年）の国勢調査では、蕨市の総人口は74,283人となりました。これは、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）推計や日本創成会議推計を上回ったほか、蕨市の将来展望推計と比較しても2,010人上回る結果となりました。
- 本市においては、近年、人口増加の傾向が続いていますが、将来において危惧される人口減少を克服するため、引き続き、総合戦略の施策を着実に実施していく必要があります。

**図表 10 総人口の比較（社人研推計、日本創成会議推計、蕨市将来展望、令和2年国勢調査  
（令和3年の各数値は参考値 ※）**



	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)
社人研推計	71,502	71,604	69,375	68,832	66,658	63,646	60,409	56,993
社人研推計(H30.3更新)		72,260	72,680	72,713	72,845	72,780	72,441	71,854
日本創成会議推計	71,502	71,604	68,817	68,140	65,430	61,769	57,872	53,772
将来展望推計	71,502	72,040	72,273	72,285	72,332	72,373	72,186	71,821
国勢調査 (令和3年は参考値 ※)	71,502	72,260	74,283	74,182	-	-	-	-

資料：社人研「日本の市町村別将来人口推計人口」、日本創成会議「全国市町村別『20～39歳女性』の将来推計人口」、「国勢調査」（総務省）、「年齢別人口統計」（蕨市）

- ※社人研推計については、平成30年3月に更新され、蕨市の将来推計人口の見通しが大幅に改善されました。
- ※令和3年の各数値は、令和2年～令和7年の増減数を案分して算出した値。（国勢調査参考値を除く）
- ※令和3年の国勢調査の数値は調査実施年でないため、令和2年の国勢調査確定値と住民基本台帳人口との差分（-1,421人）を算出し、令和3年の住民基本台帳人口から差し引いた値